

ともに学ばん

ともに歩まん、ともに築だたん
所沢市立安松中学校
学校だより
令和3年11月1日



校長 山元丈司

学校教育目標

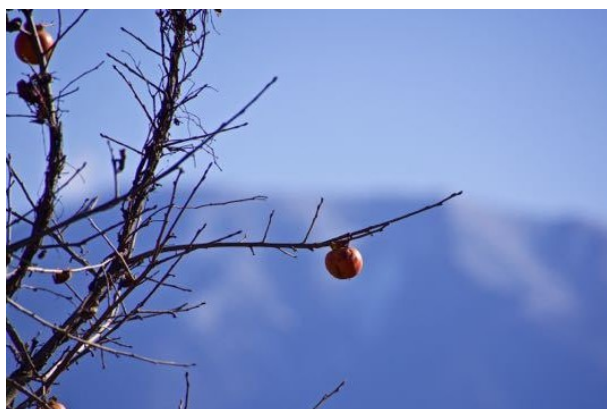
- ・自ら学び考える生徒
- ・心豊かでたくましい生徒
- ・礼儀正しい生徒
- ・働くことに喜びをもつ生徒

宣言文

本校は「地域の香りを大切にし 地域とともにある学校づくり」を推進します

木守りの心

我が家の実家には父の植えた柿木が一本ある。柿を収穫するとき母が、「必ず1つは残しておいてね。人間だけ食べるのではない、小鳥たちにも残しておいてね、そうしないと来年はならないよ」と言っていた。父の思いと母の教えを守り、今年の実家の柿の木にも大きな実が1つ、落葉し寒々としたこずえに小鳥たちの飛来を待っている。最近良くメジロがやってくる。



確かなことはわからないが、1つだけ残っている柿を「木守り」と言うそう。これは来年もよく実が実るようにと言うまじないだが、木の実を人間と小鳥たちと分け合う共存の習慣化されたもので、昔の人達も心の広さ、ゆとりの素晴らしさに感心させられる。

文部科学省が掲げる学習指導要領では基本方針に「豊かな人間の育成」を掲げ、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図ることを重視している。豊かな心では特に「真理を求める心」、「自然を愛し、美しいものや崇高なものに感動する心」、「生命を尊重する心」、「他人を思いやる心」、「感謝の心」、「公共のために尽くす心」を求めている。

このような心の教育の重視は、1つには現在社会への「エゴむき出しの、自己主張ばかり」の世相の反映であり、学校教育だけではどうにもならない。家庭や地域との連携はもちろん、地域ぐるみの取り組みが求められている。先日、家庭教育学級に参加し、カドカワの見学をさせていただいた。武蔵野をテーマに「ハケ」「雑木林」「川」など、安松地区と密着したテーマで展示がされているコーナーもあった。1年生が学芸員さんに説明をしてもらったように、地域の力を借りた教育を進めている。

小さな地域ぐるみの活動の積み上げが、生徒の心を耕す育てることになる。「木の実を人間だけが独占しないで、小鳥たちのために残す心」、こずえにただ1つだけ残っている柿を見て、思いがふくらむような安松中学校の生徒を育てたい。

合唱祭

10月19日(火)本校体育館において右のスローガンの元、合唱祭が開かれました。緊急事態宣言のため十分な練習時間が確保できない中ではありましたが、その取り組みの過程は素晴らしかったです。また新しい取り組みで、リモートで全クラスに生配信し、他の学年の合唱も聴くことができました。



学校の様子から

		
合唱祭金賞 1年3組	合唱祭金賞 2年2組	合唱祭金賞 3年3組
		
合唱祭 6組ハンドベル演奏	合唱練習の様子	合唱練習の様子
		
駅伝 大健闘 8位	カドカワ地域学習	教育実習 来年より小学校の先生に
		
緊急事態宣言解除朝練開始	家庭教育学級	命の授業

11月の主な行事予定 (予定が変更になる場合がございます)

5日(金) 1年校外学習 地域巡り	11日(木) テスト前諸活動停止
10日(水) 校服バザー	18日(木) 期末テスト 19日まで
	12日まで

